

平成28年10月3日～10月9日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について （お知らせ）（平成28年度第20報）

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について、今年度は、5月13日(金)から情報提供を開始しました。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行っております。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. この期間（10月3日～10月9日）の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上（危険）の時間数	（168時間中）
1. 南大東島（沖縄県）	13時間
2. 久米島（沖縄県）	5時間
3. 名瀬（鹿児島県）	2時間
4. 延岡（宮崎県）	1時間
4. 宮古島（沖縄県）	1時間

<参考>全国9都市の観測地点（暑さ指数31℃以上）

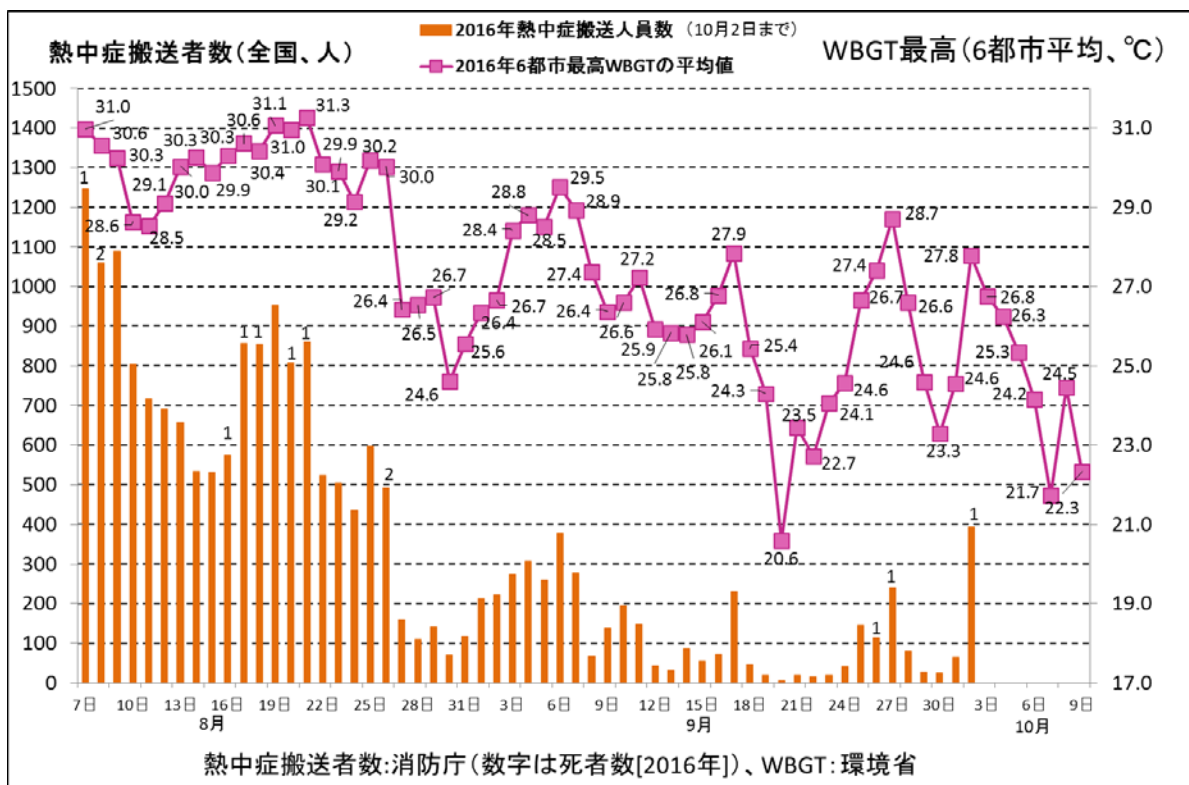
札幌（北海道）	0時間
仙台（宮城県）	0時間
新潟（新潟県）	0時間
東京（東京都）	0時間
名古屋（愛知県）	0時間
大阪（大阪府）	0時間
広島（広島県）	0時間
福岡（福岡県）	0時間
鹿児島（鹿児島県）	0時間

（注1）暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。

（注2）暑さ指数31℃以上の時間は、九州から沖縄県にかけて、また、同指数28℃以上は関東地方以西の多くの地点で観測されました。なお、暑さ指数31℃以上、28℃以上とは、（公財）日本体育協会の指針において、それぞれ、運動は原則中止レベル、嚴重警戒レベルです。

3. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

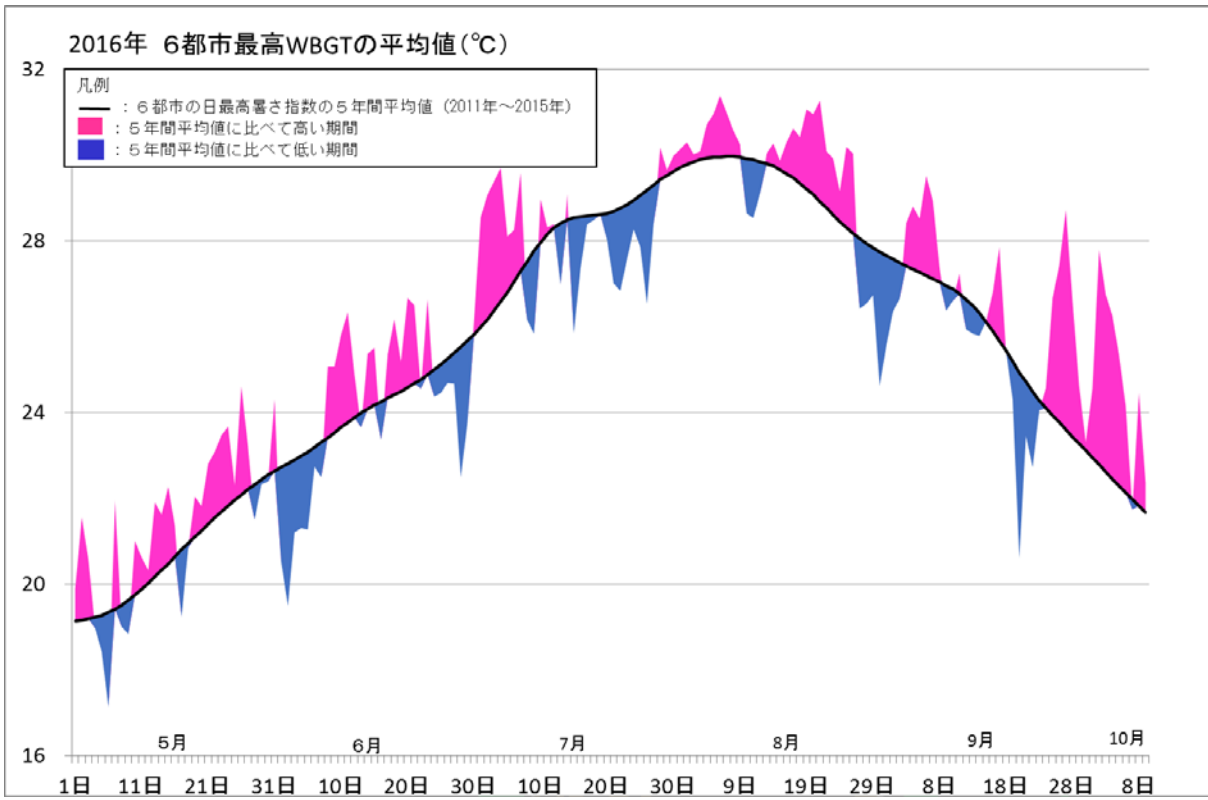
6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、10月3日から9日にかけて、28°C前後から22°C台と大きく変動しました。
- 沖縄県を中心に九州の一部で、暑さ指数は熱中症危険度の「危険」を示す31°C以上となる時間がありました。また、関東や北陸以西では「厳重警戒」を示す28°C以上となる日もありました。
- 気象庁発表(10月12日11時時点)の週間天気予報によれば、「最高気温・最低気温ともに、北日本から西日本にかけては、期間のはじめは平年並か平年より低く、その後は平年並か平年より高いでしょう。沖縄・奄美は、平年並か平年より高い見込みです。」とされ、沖縄県、鹿児島県奄美地方では、引き続き、熱中症への警戒が必要です。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。
6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市

4. 2016年の6都市の日最高暑さ指数と過去5年間平均（2011～2015年）との比較
6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



10月3日から9日かけての期間は、6都市の日最高暑さ指数は、過去の平均値よりは高く経過しました。